

共八

丁酉拾遺物譜

存しや海古納と物茂といふ納ありは六納をそ強
國といふ人もある高末没の孫後賢大納言の才二の
男也幸一たりなりてやめつとをいひてややま
とやて八月より八月までしお宮院一切終焉のも
の山ともしもも退房といふ事ありありとわらきなり
とてす海大納言とをすしなりもとくことゆひわ
きく

大介らお輪と

上トといひしと

△
事おひてせきも若て教や得るもそのひうてくるは
きんひておが死なるときししはうのきんはかき天竺

さよや後大納言物持とつふ物なりは
大納言を隆

國とりふ人ありあまぬり
後賢大納言の才二の
男也幸一たりなりてやあつさ
を且ひてつやま
とやて又月より八月まで
しお普院一切雑務の
の山まゝしよる退房とつふ
取ありありなるら連たり
とそや後大納言とを
すしたりもとく
と由ひわ
きく
さをりしよる
て

大なり打輪と

上下とつしと

若お後とせさう勢て我を
目るそひうてつる
おま
とつひてお平死なうさ
きしよるうく
思はるる
と天竺

の事もあり大唐の中もあつて日本に事もありこれ
ありありとていふゆゑにありあらずもきりありきり
る凡事もありかゝるをいふもつり利にならず事も
ありあらずやうくありきり人等を興ししみる十四
てうやうのふかき侍りていふ後後身やのひり人
のひりていふきりていふ成りりりより後あり
まんとていふきりていふひりていふ物多くなるれり大綱を
もる後のありていふなりていふなりていふなりていふ
今の世も又物記書入ていふおそれり大綱言のい語
おのれありていふひりていふひりていふひりていふ
集のころなりていふしむと宇治拾遺曲のいりていふ宇

治のいりていふなりていふなりていふなりていふなり
拾遺といふなりていふなりていふなりていふなりていふ

とていふなりていふなりていふなりていふなり

宇治拾遺物語上第一 目録

- 一 道令おれ泉式戸評評評評評評評評評評評評評評評評
- 一 舟波岡原村平草生る
- 一 鬼小瘦とていふなり
- 一 伴大綱をり
- 一 路求路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路路
- 一 中綱とていふなり
- 一 藤門重康とていふなり
- 一 一場の台金取出る
- 一 宇治政たてていふなり

- 一 秦兼久向後の許悪の事
- 一 源大納言雅俊一生不犯金打せしころ
- 一 兒代りいりすりにお寝しころ
- 一 田舎兒様おみて泣き事 一 小坂太聲にやしころ
- 一 六童の蛙ぬすころ事 一 五比流みまころ事
- 一 浮舟老百巻取しころ事 一 利仁芋粥事
- 一 清徳聖持の事 一 静観信正の法持事
- 一 因信正大獄の苦いころ事 一 金峯山落打事
- 一 用隆荒巻事 一 原初死人を家よりりころ事
- 一 鼻長僧事 一 膳酌老人お封ころ事
- 一 季通のさころいころ事 一 びとすころ事

宇治拾遺物語上中一

今をむろし道余の圃梨とて傳教の子おまにあま
 りころ僧ありころし和泉式部も趣たり経を目出く
 ろころころ建の和泉式部ころ行て外よりりころに
 めさめて経成ひをさあてころころころ種は八巻讀
 らしころ睡しころあまころころ種は人れげころひの
 ちけまらあまころころ種はをれまら又除
 高洞院の道し種はよいと書られころしおおころや
 る命りひたれはは経をころよひあめら事一の生ら
 世ころ馬連のころ種はころひりまころ命は花経成ら
 見えらるやつころ力る也なとあよひりもりころ

うむりひんるん又條の齋りしく清くしてよむらうせ
時時や梵天帝釋といひしりなりて梵をさるる勢今入
も難なくさちうつさありてうけ清くするをよひ
彼をもあよひやあゆ水とひこしてよむらうせのう
や梵を帝釋といひ梵を彼ともいふて難なくよむら
てうけ清くしてさあうひぬる事う馬つしく彼や
やう清ひたりまれも何うなくさいふをさうとこ
きよくしてよむらうつさ事なり念佛讀經回威儀を
解ゆるるなりまを惠びれぬおも戒のよよいそ
是も今も若舟の國條村と云ふ一幸一は亦草やう
うもなくあうらうとらるる里村の若是強とらして人

まことんがー又ひんるんひんるんてやーいりりりり
獲ひうのさやよとりてむらうとらうとれくゆあひ
めーらたつあをさう法師やまの二三十人つらう
うくまでやーるんぬーとらひなれをりつならん
うむらよよひ法師あやひーいりもさやつらひ
うくして彼つあひのひさとれぬつきてうらをよそ
るまうり彼をさする事一のうさういぬまのり
又ゆのうーをすてしやあひてふれうーとやー
るりとりよとみくうらたとろよてこさうらうら
つたやこやうよのころ程一又そのやう人の
後うとは定よみとなりとてあうい因縁一清まら

うらやましむ瘦むゆりー 尻ひらんとー 右をりて依
物とゆへなくのせいすらるれいよ依なれとひ
てよここの鬼うー物ーミP物やたうれを取を
ーやとらへた鬼よわてゆもとらよとてねちてひ
くふちこしひいねあーさくものさすいれいひ
乃而遊ー 多うーしてとて愛は馬なとるいあま
鬼ぞうらぬ翁うがとさくろるー 羊はろるーこめ
あとなくひひのひらやうよはやくなうりけ
まよおころんここと馬まで家よ、色こぬ妻のう
もこさうりりなりけうゆうとくへちうくとくし
うさゆーえりやこりよ隣よあう翁左のうがうー

たさうあふあゆりは翁瘦のうゆうをこて
こさうりりて瘦へう若治ううりりこなく鑿師
乃取やたうを我もはく人うくこれおぬこらんと
まそれの是やくすーれ取あうよとあひちうく
乃こしりりて鬼れとらとらるるとひなれ我を
定めてやらしとてこれ決ゆとらぬおとひ
けまらとーへのけ翁りよまうよーしてこの本れ
つがすー入てやうなれとまあやよとくやうすー
て鬼らさうさういれいれい酒のこちうひて
やうら翁をちりこるこちうひのちういれ翁ちう
うーとひひなうー色うちあういれ鬼とまあうよ

舞事りて後とコーセキ横たの鬼ころりての思とく
まへといふもさだのちえふよりや天骨もなかくと
ろくつかてんらに横産の鬼にれこひもまら
くまふちりせむろくれらるるまらこ
ぬやへくこらひされすちつこらもあふこ
まごまらぬこぬらしてふもてまらこ
うがよるの思きたりし思こころこ
まこらあまかなふこそなりこらされのこ
と勢ちるまことるりこら

是も今も若きもの大御も若男も佐渡國郡司の徒
若や故國よて若男なるみりやうあたちとあたち
あまのひくさしちまこみと毒のまらこ
そこあめれいもくろこれらこらうまら
らのあまもまらこ若男たころきてりこ
を語てりろくおとたろれらこら
けこらふあも初目まこら相人やけり
こもあぬも殊かも答應してまら
びつひてろくのかせられた若男あ
我もまらよせてあのりひつおし
まらすくやらんと思思宿もく
なしこか死る相のあまら
くまのこらこらりこら

おつてまてはさぞふらうやうな事つてあひ
た善男嫁につきて系止しとた濁まよひの段の
とと花をとりあうくむり言繫ようもを
これをもむらう人のりこりせくくしく
しををひとのほりい腰はけを錫杖つさな
うら山歩のあしくまけなら入きて信乃たぐりや
この肉丸小庭もまらんと信あ連をりりか
うやとひの連かこまて回れ白山う信つあ
たき道家つてした二十日のんとはし信くあ
まうはまてるりまうらあううんとPあまのへ
こりひてたてりこまの類まゆのあつ信よ
まよふてしおふのまわりのうらまの
てあうみい信よふてこくもうれ額のます
りりなる事うとあやうもやうとく
くいあまのりりりり是中路求路屋を
うらうやとあ信のあときゆりまごよ
信まのりてのゆひなまりこらやあたみ
とまひの被まてまらふあつて段よう
あまのりりひあひんらほよ十七八
あ小信のあつてうらうらみてうか
らうこの信師やなしでう路求路屋を
段その事や七条あらに白野あつて
段やもちうまごよりくれ入うくま

よこそ其の交りも少くはなりたるは男のいりりたる
まのいりたるをたれをとる物もともあへて述べてあへ
けりろ冠者の家のまへに程してをひつめりねくさ
りりるをいしてひひの成うら破きとらうりり冠者
とらうりりもつりりそあひまうりり人せまうりりてあ
か教成りまうりりまうりり事と世とらうりりまもあせと
まうりりまのいりりたるもうりりまうりりつりりてま
いらうりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まうりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
是も今も若中物と申討とらうりりりりりりりりりりりり
のありりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
すのたかなりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
納りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まうりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ゆとらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
持りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
と思とりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
生れりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
とらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ぬりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

かりてまうしをなすじとすうの月日場のうらお
ひまふ男まてせとらじすうこうんをてめふる
金ちおとつきてきかうしとて取おてはかうひ
るひてき貧るをねはけうつおなくてまうひか
むとてく志りのひをーを死けぬとこの家と
もういさうーおひしてらふとまらつあてこれ人
成しくせめなれし是もあまのうらおひする者お
てもとてさううらおひとてとーおてのよの
ららり々々あまのたのゆへとまを掌の中力やう
そーしとてさうまよてちのひらるあり
是も今も若き陽院はくうらるる宇治政徳馬は

てりいらせぬあひこさうれうきのそてしらしとや
せ給ひ普僧あに初られむとてあるよづのよす程
いまいさうさうさ死よあまのけがれなる女
物つきてやてりてをあつとてあすまといの
あまらうよとてつくおしとてあまらり僧あま
あうさ死よ護法あ死たりてありてをひとてひと
あうさ死をひらとていそやとて則よくあらを
まらりまんと僧あつとてあまらうい
今も若きあつとてあ後つ後拾きてえうとれりりと死
秦善久由きとてひてとてあつとてあつとてあつとて
てうらうひとてあつとてあつとてあつとてあつとて

毎後のりしこくゆきてしゆりしにうつてくやて
りくおれと諸されき後やるうらうらふつがてうり
たりしく物かひしうとこいれたり
是も今を著系極の源方綱言まきこころいんれ
ア一たり佛申をせりりりり佛おつて僧！鐘を
おきて一生不犯なりをえりひて誨を初れりり
よあつ僧の礼盤ものかおてすも一やら一きぬ
りひおやうよかりてきりしやとてあつてありませ
しうらもぬてちしししししししししししししし
綱きつうしと思しんけつ極よもひししししししし
もつてあつたれし人ともあつつうなく思はる程

よあめの僧まゐりしにうつてくやてしゆりしに
つしゆをいとりひりりりりりりりりりりりりり
てまゝひたつ！一人のゆるまてのそつおひちりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
くひをひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひちしししししししししししししししししししし
たりとそ
是も今を著ひえりゆりりりりりりりりりりりりり
のつれくよしきつしちちちちちちちちちちちちち
鬼んりきよまゝしりりりりりりりりりりりりりり
て終るんてまろつらとなんと思てしししししししし

これも今も昔源太判と定房といひたう人のい
よ小敷おとと結りりたりやうてかよあひくして
うのりらうむもあもかよてはきたりこれ小敷太
そおたゆこぞーとれ三と張り回とをりよあひろ
もてそりりけくはかのりなふるさつせうりーの
むりらうきりらひよ思ひて高へりらよらるあ
けきよるあゆりてえゆらうくーりたりはかの
おるさうへあのりらよりこれ聲のそ屏風を
まづーてねここたうまぬりとなり少りてぬを
まやうもなくくーたるとらよひーうとの小敷太
ひ聲の思つれくよくむらとあうかやーかー

まて持て今うこもよ挽酒を入てあもさうま
らこやーあーしと思つてたぐん方めさるる
なくてりてゆこひ聲の思へまわとりうつ
なままよーくーあまたりこれお金のうへちりよ
しーとつてよ思ておたのけりう程は奥れ
里遣たよるたれらうこひかくこれお房のうへ
かおれうととてまぬれかおつおぬあ
あとりんやーて股とらうーてりーしとお
けまや小敷太ひひえてるけらまのありらう程は
あうかもあゆりーこけとさならうおあがして太
積とあーまのあゆよーてふれり

屋とろくろうらくまんとしりてよきおらるるもの
是と今も若越後國もと鯨を馬よたみきて女も計
栗田のよのよをへをひりおらるる思はれんや
うらりおらるる程にいふもよふけんや大童子はま
みちくまてそのむらううちもらひりていふ
うは鯨のひたの中へもへりてはなりみらる
ましくしてむすけりやひりめ死りかひひはたを
子アアアアアひく鯨が二匹ひきぬきてぬきてぬきりあへ
ひきい程でんもいふくさうけなくしてはりてあは
さくろとひ鯨よくくく男みてはらりアアアア死
らうて重のたてくひととりてひきとめてまね
とまへ一やうさうつては鯨をぬきむらやひひ
まへ大童子らうくくく何とせうこまくくくくを
のろくわやうとりては重よたみするもとま
くくひくく程よのちりくくくくくちをさ
てゆきもなうくみあひたりらう程よは鯨ひり
ちやうまゆくわきんちやうとまくくくくく
ひりてはひり大童子を又まゆりそぬきすは
程とひりては鯨よつがう男とひすは我も
へもやうくくくんとあ大童子とまてややあ
くまらこいお程よは男袴をぬきてぬきころ
ひろきくくくみねへやいひてひくくくくく

これ男女童子一りけりついでおとせしや物
わのくちからいひはらひておとせしや物
まきしや物とてこれ男もあつておとせしや物
をひはらひておとせしや物とておとせしや物
たると男もあつておとせしや物とておとせしや物
まきしや物とておとせしや物とておとせしや物
よとせしや物とておとせしや物とておとせしや物
おとせしや物とておとせしや物とておとせしや物
わとせしや物とておとせしや物とておとせしや物
一なりしや物とておとせしや物とておとせしや物

今も若舟及周に老々りたり地鏡井ハ處こころ

ありまきしや物とておとせしや物とておとせしや物
よ地鏡井をいひておとせしや物とておとせしや物
博打のちやうけておとせしや物とておとせしや物
かたよとせしや物とておとせしや物とておとせしや物
なるとおとせしや物とておとせしや物とておとせしや物
地鏡井のちやうけのちやうけのちやうけのちやうけ
よとせしや物とておとせしや物とておとせしや物
まきしや物とておとせしや物とておとせしや物
よとせしや物とておとせしや物とておとせしや物
まらんとおとせしや物とておとせしや物とておとせしや物
い色やのちやうけのちやうけのちやうけのちやうけ

よあまのちいさしては使のまき物くくむしうてし
る縁よや戸とまりのしけうのしやと。るを利仁
うりまうひてあれらみととせひてあしとけく
と滅。あしとせきとけく。しそあかれこ
し。く。と。わ。ひ。て。希。き。の。ゆ。や。と。う。く。し。ま
ら。を。あ。つ。し。し。人。や。あ。の。む。し。く。戸。と。ぬ。り。帰。り。う。こ
の。元。こ。よ。ゆ。り。羊。粥。よ。い。ま。し。あ。し。す。と。け。ら。珍。事。を
あ。り。勢。た。て。ま。う。ら。ん。と。と。あ。る。と。あ。ら。り。と。ん。つ。と
い。へ。る。を。す。れ。と。の。よ。と。え。ら。り。せ。け。の。あ。り。な。り。う。が
と。て。た。と。あ。り。思。つ。又。佐。東。ぬ。湯。ま。し。た。り。と。て
く。と。う。の。あ。し。く。の。路。ま。り。な。と。ら。の。ぬ。と。あ。れ。て

あまのちいさしては使のまき物くくむしうてし
る縁よや戸とまりのしけうのしやと。るを利仁
うりまうひてあれらみととせひてあしとけく
と滅。あしとせきとけく。しそあかれこ
し。く。と。わ。ひ。て。希。き。の。ゆ。や。と。う。く。し。ま
ら。を。あ。つ。し。し。人。や。あ。の。む。し。く。戸。と。ぬ。り。帰。り。う。こ
の。元。こ。よ。ゆ。り。羊。粥。よ。い。ま。し。あ。し。す。と。け。ら。珍。事。を
あ。り。勢。た。て。ま。う。ら。ん。と。と。あ。る。と。あ。ら。り。と。ん。つ。と
い。へ。る。を。す。れ。と。の。よ。と。え。ら。り。せ。け。の。あ。り。な。り。う。が
と。て。た。と。あ。り。思。つ。又。佐。東。ぬ。湯。ま。し。た。り。と。て
く。と。う。の。あ。し。く。の。路。ま。り。な。と。ら。の。ぬ。と。あ。れ。て

るびの丸めをのちろくあさりー死捕。水とのし
てはうたとき。さくくくくくくかふるゆまうと
うぞと運まこの水とみるのみきんなり多まはら
まをのこやまのたのしうりやせーくうらひら
うふろかれかうやうるうのこ路の十路人りりい
てまくとは羊をひききす死きりよみきんこや
のこ路まうむりくうこみるよらふをよあくら
ますうちりてうこまーるりまうりあうく
とりをらうーていも路りくまうてまふらまこと
たのきをまごをたならんこらけくしてうの控
のこ路まうらうらうらまふらまう入てうくと
てまうまうらうらまふてうの路をたふえくらま
死のこ路まうらうらうらうらひてあひまうてぬ
てまうらうら路のゆはま羊路のひつとらひり入
うやうよまう路よむらひのかうをれのをまう抗れ
まうのそまてぬらうと利仁まのけてのまゆら
まう俄ー抗のまうんすうとそてくれよおくら
撥まうのひひのまうくまう路まうらうくひてま
くまうらうらうらうらまのりーといふをらうらま
月うりあうてのちまうらうらまのたまあうま
まうまうらうらうらまうら八丈綿まぬらう皮子
まうらうらうらうらまうら路のまの井田まうら

かたりたり愛人歌をうりよきて静観僧正よむら
せトこびくしうしとさうむりしうさびくやうり
くく乃し方よはあむとさうをふあうり一産
とらうてふし壁ののちよたらてしめきむら
まやうのまやとりかゆひくろるまとおがせくた
あ連はれもあむうくはじ僧正うのら死を律師お
てよし僧部僧正上藤とまゆしりまとも面目のま
まなくてあ殿ハあ階よりくくりて屏のりしよお
向よりりて香燵取くひきて額よあ呂とあてくま
せりなるみる人あくくくあまらり焚日のま
あしとえあしあむいあまらりあまらり燵とたてく

初精志強はれあ香呂の燵をるあうりてあし死し
あまのくろあまらうよ達アやあぬあうりひぬぬ
よんやあゆぬよきてみるあよ達アハああを羨ぬ
くのんまあまのそくくくのこしくみる強まうのあま
むらなく大をよ引あまきて童作あんとうしてん
くはう大十界よみらうやちくのこしくなるあぬ
あて天下よりまらううりあひあ穀を饒まうてあ
あ果としあぬらしりんあ人あ服ますとりある
帝あ長あつあ路あまう僧部ようああああ田後
のああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああ

つともの如く南に向てたなきとまのるあて
るもたなきなりぬりれ方乃そひよむかきなる巖
かりうれ岩のまゝおのくらをわきうらよ
まなりうの岩乃すらみひひて恒けり僧を命も
ろくしと多死よりみはくくしつふしてさぬ
をうしと心もえさるまら様もはいまのあま
そとつひたりよなりけりもと毒の業とそ名つ
はしこもれこれよりりて西塔のありまはめ
きよのこあまきりなりはまけん志ゆ院もと人多
あまげまはしこころうらひるまのりしと
に誠はあの大いなるは似たり人のりしと

まおこさかりなりと僧おひりてあめ岩の
よ向て七日七夜か指し為りしと云
しやくのりしと云しとすくむらひぬく
思ひてみしと云しとすくむらひぬく
まてみしと毒の業とそひひと云しと云
里後西塔へ入すまはれと云しと云しと云
塔の傍とそや件のをまをそひひと云しと云
おつこらりとそつこつと云しと云しと云
今も若七條は指しりりみこまおしと云しと云
のこつと云しと云しと云しと云しと云しと云
つともの如く南に向てたなきとまのるあて

も持ちもたとして友をよひくして金をさしつゝもの
ださよとせしきくまうくちくくしてよいと八許へん
りつゝ女の身もことごとくをまねてお前發てしや
をけ取よとめてや入こいられされさけしりしを
かゝしよゆつゝいよむけりありたてくかるとんつ
つゝいぬしつゝよるつゝきい七十なるつゝしとへま
かゝつゝむつゝあるつゝひとくと水よぬしつゝ死
せしつゝせつゝよふとくとるりてありけつゝと前て
獄おしつゝりまきつゝしつゝふ十目もつゝありて
死よらるまくとや金巻おしつゝしてりしこのおに
をさしつゝつゝいつゝいもいもつゝりしつゝしつゝ人だ

ちて証件の金とつゝしつゝとぬみ入るつゝおむつゝろ
今ちるおまのつゝこたりらるゝなよ達ありらるゝ
老てしつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
ろおよちつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
さくらんつゝつゝ紀用給つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
短けつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
なんつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
おつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
を多くおつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
おおつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
ひつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

これより入りし原のひりしさいのひりし唯原
のりちんや人もまうきしてみはるも原志くす
のび原のや命もあうくつうく一さるる
物にたむや命もなうく子孫もあうゆいし
くすしきし人とししす悲とぶらりかど
ころし人とさつ物天をもきそめくみぬ
うしあまもあまひうやて下人とさし
ういどあまこちりあかちてうれも
たうこそうの事世もあつてぬ
あつたるまもくも後九十つり
あつたることまもつころあつて
て千聖の子孫も全人の中
昔の毛も昔跡同然とい
く習ひて年一のまもあつて
人こそあつたのつれを
つかて聖も信也もす
あつたうもあつたうもあつた
しきくあつたあつたあつた
傍もすこみまもあつたあつた
くあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
鼻長うもあつたあつたあつた

て千聖の子孫も全人の中
昔の毛も昔跡同然とい
く習ひて年一のまもあつて
人こそあつたのつれを
つかて聖も信也もす
あつたうもあつたうもあつた
しきくあつたあつたあつた
傍もすこみまもあつたあつた
くあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
鼻長うもあつたあつたあつた

110X
401
8